



## 永井荷風と「踊子」「夢の女」展示リスト



平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）から平成 30 年 2 月 18 日（日）まで中央図書館の 2 階にある文学ミュージアムで、企画展「永井荷風：荷風の見つめた女性たち」が開催されます。

この企画展にあわせて、中央図書館のコレクションから、永井荷風の原作をもとにした映画「踊子」と「夢の女」関連の資料を展示しました。普段は書庫に収蔵している貴重な資料もありますので、どうぞご覧ください。



### 永井荷風と「踊子」

映画「踊子」は、1957（昭和 32）年に公開された作品で、永井荷風の同名の小説を、田中澄江が脚色し、清水宏が監督しました。シャンソン座の踊子・花村花枝役を淡島千景が、その妹千代美役を京マチ子が演じています。

小門勝二の『荷風耽蕩』（有紀書房 1960）には、荷風と小門が実際に映画館に観に行った様子が描かれています。

今回の展示では、大映株式会社の台本のほか、関連する資料を展示しました。

書名	著者	出版社	出版年
『 <small>かふうたんとう</small> 荷風耽蕩』	小門勝二	有紀書房	1960
<p>荷風と著者の小門勝二が、浅草へこっそりと映画「踊子」を観に行った様子が描かれています。</p> <p>“(略) 浅草へこっそり「踊子」を観に行くことになって市川の家を出た。(略)</p> <p>荷風のいうとおりにして、いちばん安い席を買ったが大入満員、うしろのカベに背中をよりかけて、立ってみるようになった。</p> <p>「お金を足していい席へ行きましょう」と、いったら、</p> <p>「そのお金の分で帰りに『梅園』でおしる粉をたべた方がいいな」と、いわれた。” (p. 177～178)</p>			
『荷風踊子秘抄』	小門勝二	有紀書房	1960
<p>映画「踊子」の毎日新聞と朝日新聞に掲載された映画評が紹介されています。</p> <p>また、荷風は「踊子」の映画の宣伝広告を新聞から切りとって集めていたようで、小門に対し、</p> <p>“(略) そういう広告をうんと集めておこうとおもったんですよ。この間見たのには京マチ子がシュミーズ一枚で変なすわり方をしているのが大きく出ていましたぜ、朝日新聞に”</p> <p>「それで先生は広告に興味を持ち出したんですか」</p> <p>「まあそうです」</p> <p>荷風はパールのけむりをゆっくりとわたくしの顔にふきかけた。” (p. 185～186)</p> <p>荷風が見たものと思われる、朝日新聞に掲載された映画の広告（複製）もあわせて展示しています。</p> <p>また、荷風が撮影した「浅草オペラ館楽屋の踊子」（昭和 18 年 12 月）の写真が掲載されています。</p>			
『朝日新聞』昭和 32 年 2 月 8 日 夕刊 8 面（複製）		朝日新聞社	1957
<p>京マチ子がシュミーズ 1 枚ですわっている写真が使われた映画の広告です。荷風が見たのはこの広告だったのではないのでしょうか。写真の横には、「男の人に誘われると、あたい、何だかわるいようでことわれないんだもの：情痴の世界を描いて比類なき荷風文学の完全映画化！」との宣伝文が掲載されています。</p>			
『朝日新聞』昭和 32 年 1 月 11 日 夕刊 5 面（複製）		朝日新聞社	1957
<p>「映画界に荷風ブーム」と題した映画公開前の記事で、淡島千景と京マチ子の踊子姿の写真が掲載されています。</p>			

『朝日新聞』昭和32年2月13日 夕刊 2面(複製)	朝日新聞社	1957
映画公開後の映画評で、「荷風もの」では一番：通俗的な面白さ」と好評されています。船越英二を真ん中に、京マチ子、淡島千景の3人並んだ写真が掲載されています。		
『踊子』	永井荷風	中央公論社 1957
帯に「大映映画化」、また、表紙には映画「踊子」のパンフレットの表紙である淡島千景、京マチ子の踊子姿の写真が使われています。		
『浅草ロック座昭和末年』	勝山基弘／写真, 池内紀／[ほか]文	美術出版社 1995
踊り子たちに囲まれた荷風の写真が掲載されています。		
『淡島千景：女優というプリズム』	淡島千景	青弓社 2009
淡島千景が京マチ子との共演について「京さんは、OSKで本当に踊り子だったからいいけれど。私は元々お芝居っ子で、踊り子じゃないから、相当プレッシャーでしたよ。」と語っています。		
『台本 踊子』	永井荷風／原作, 田中澄江／脚本	大映株式会社 [1946]
『踊子』	永井荷風	筑摩書房 1949
『太陽』1971年6月号 特集：永井荷風	平凡社	1971



## 永井荷風と「夢の女」

映画「夢の女」は、1993（平成5）年、永井荷風の同名の小説を久保田万太郎が新派のために脚色した舞台用の台本をもとに、坂東玉三郎が監督、吉永小百合が主演で映画化されました。

今回の展示では、久保田万太郎脚色の新派演舞場の上舞台本のほか、関連する資料を展示しています。

書名	著者	出版社	出版年
『夢の女』	永井荷風	集英社	1993
表紙には主演の吉永小百合の写真が使われています。			
『夢の女 昭和45年5月 新派 演舞場上演台本 五場』			1970
『夢の女 [縮刷版]』	永井荷風	艸山書店	1916
『夢の女』	永井荷風	河出書房	1951
『夢の女』	永井荷風	岩波書店	1993
『地獄の花・夢の女』	永井荷風	河出書房	1995
『吉永小百合』	吉永小百合	世界文化社	1995
侍の娘ながら娼婦に身を落とした女・お浪を演じている花魁姿の吉永小百合の写真が艶やかです。			
『キネマ旬報』93年5月上旬号		キネマ旬報社	1993
ロードショー公開の広告が掲載されており、「第43回ベルリン国際映画祭正式招待作品」とあります。			